

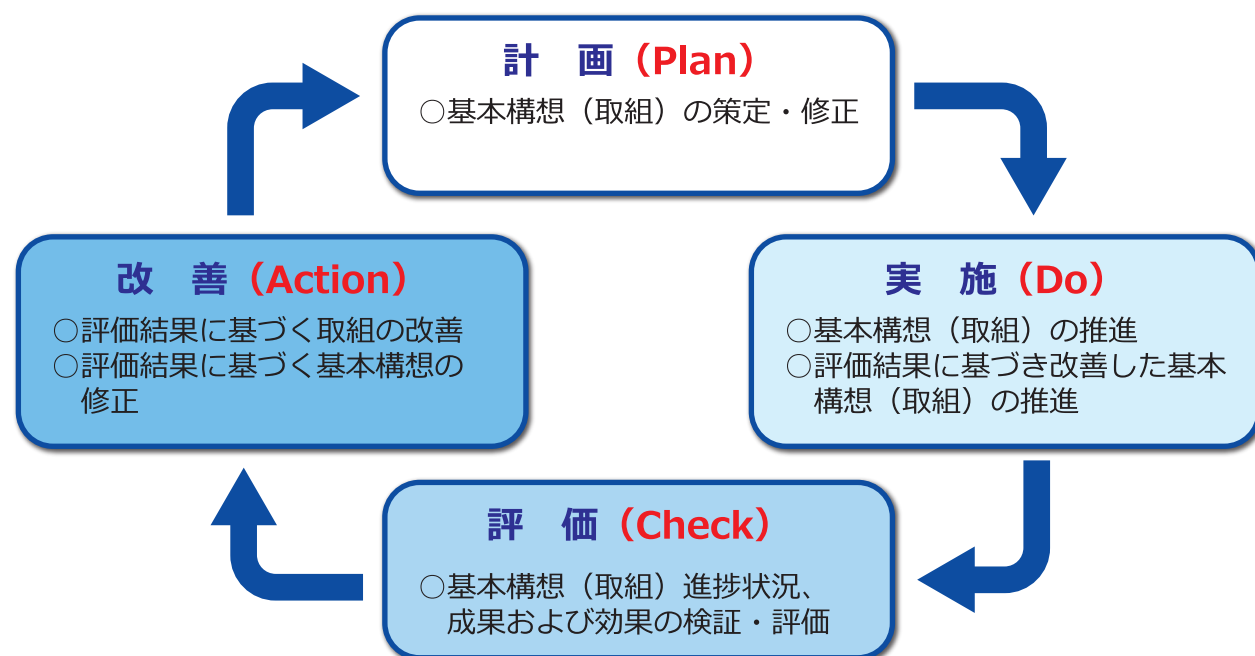
◆基本構想を進めるために

本基本構想のコンセプトの実現のためには、行政をはじめ、住民、民間事業者、NPO、まちづくり会社等がそれぞれの役割を理解し連携してその取組を進めていく必要があります。

そのため、住民をはじめ、行政や民間事業者、NPO、まちづくり会社等、それぞれの担うべき主体が参画して、本基本構想の取組状況等を確認することが重要であり、今後とも、意見交換や交流ができる機会を設けていきます。



また、本構想で位置づけた取組を着実に推進するために、PDCAサイクルを構築し、計画策定（Plan）、施策の実行（Do）、施策の効果の分析・検証（Check）、計画や施策の見直し・改善（Action）を繰り返すことで進行管理を実施するとともに、取組の実施効果を点検し、定期的な見直しを行っていきます。



赤磐市 山陽団地等活性化対策基本構想 概要版

◆基本構想策定の目的

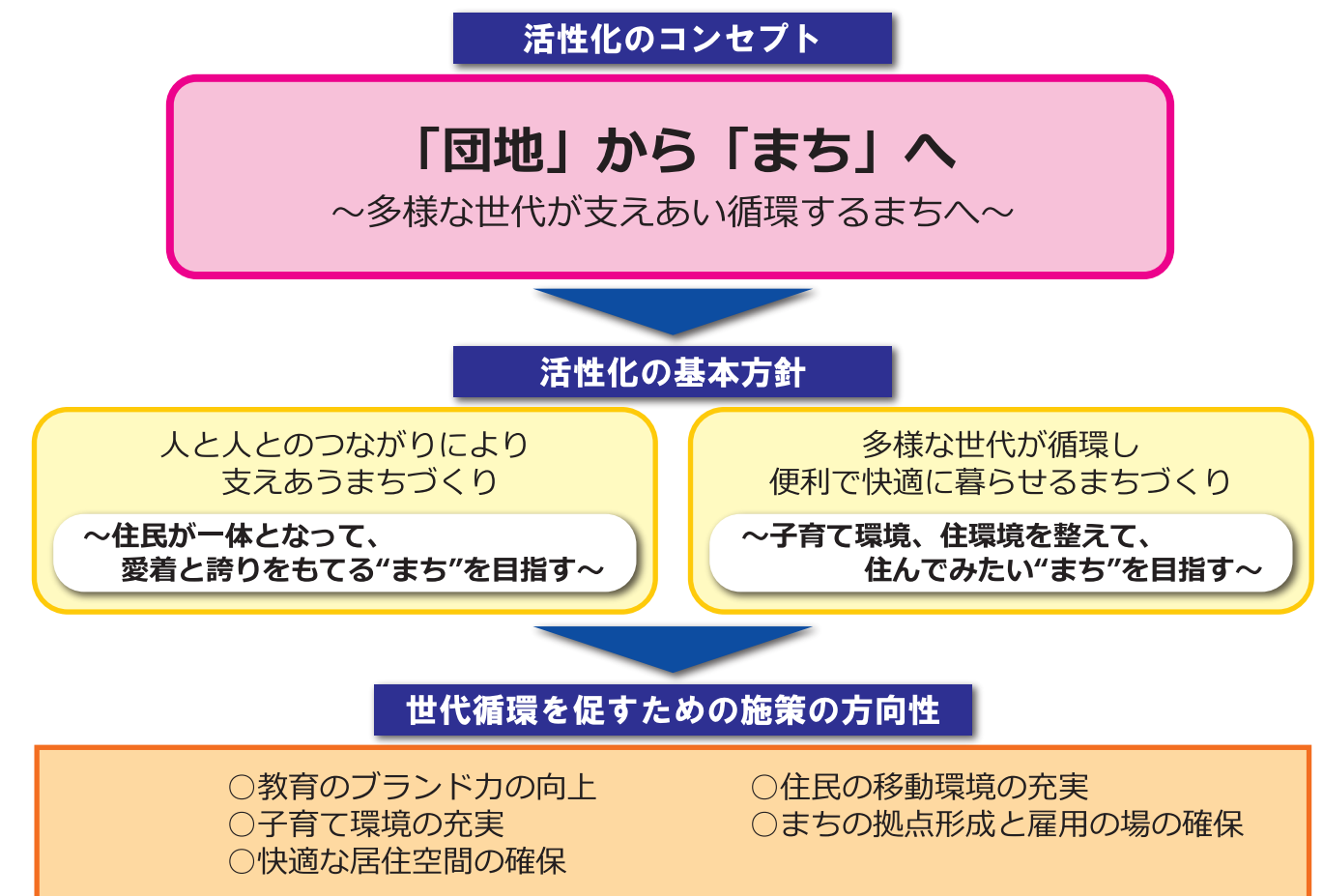
山陽団地の立地の優位性と移住・定住の受け皿としてのキャパシティを活かし、良好な住環境を形成するとともに山陽団地とその周辺地域において、赤磐市の南の玄関口としての“まち”の賑わいを創出していくことを目的に、「赤磐市山陽団地等活性化対策基本構想」の策定を行いました。

◆活性化のコンセプトと基本方針

進学や就職による転出が一因となり、若者世代の減少や高齢化が進行している現状と、教育に対するイメージの低下、居住地近辺に働く場が少ないなどの課題やマイナスイメージを払拭するとともに、子育て環境や支援を充実させることで、子育て世代が魅力を感じるまちを形成し、まちの雰囲気やその良さをPRしていかなければなりません。

主に、住宅の集合体という「住宅団地」のイメージから、団地全体が「まち」として様々な機能を有し、その機能により子どもから高齢者まで多様な世代の人たちが支えあい、**世代循環**を行いながら安心して楽しく一生を過ごせる「まち」の実現を活性化のコンセプトとします。

その実現のためには、多様な**世代の循環**を促すとともに、**世代間をつなぐ絆づくり**が必要であることから、「人と人とのつながりにより支えあうまちづくり」、「多様な世代が循環し便利で快適に暮らせるまちづくり」を基本方針として設定します。



◆施策の展開

住民や民間事業者、NPO等を中心として、これからのまちづくりの主体となる専門的な知識や技術を有したまちづくり組織の育成を検討します。

◆まちづくりの施策

子育て世代が魅力を感じる「まち」を目指し、「活性化の基本方針」に基づいた「世代循環を促すための施策の方向性」を体系づけ、重点的な施策をイメージアップ戦略（◎印の施策）として推進していきます。

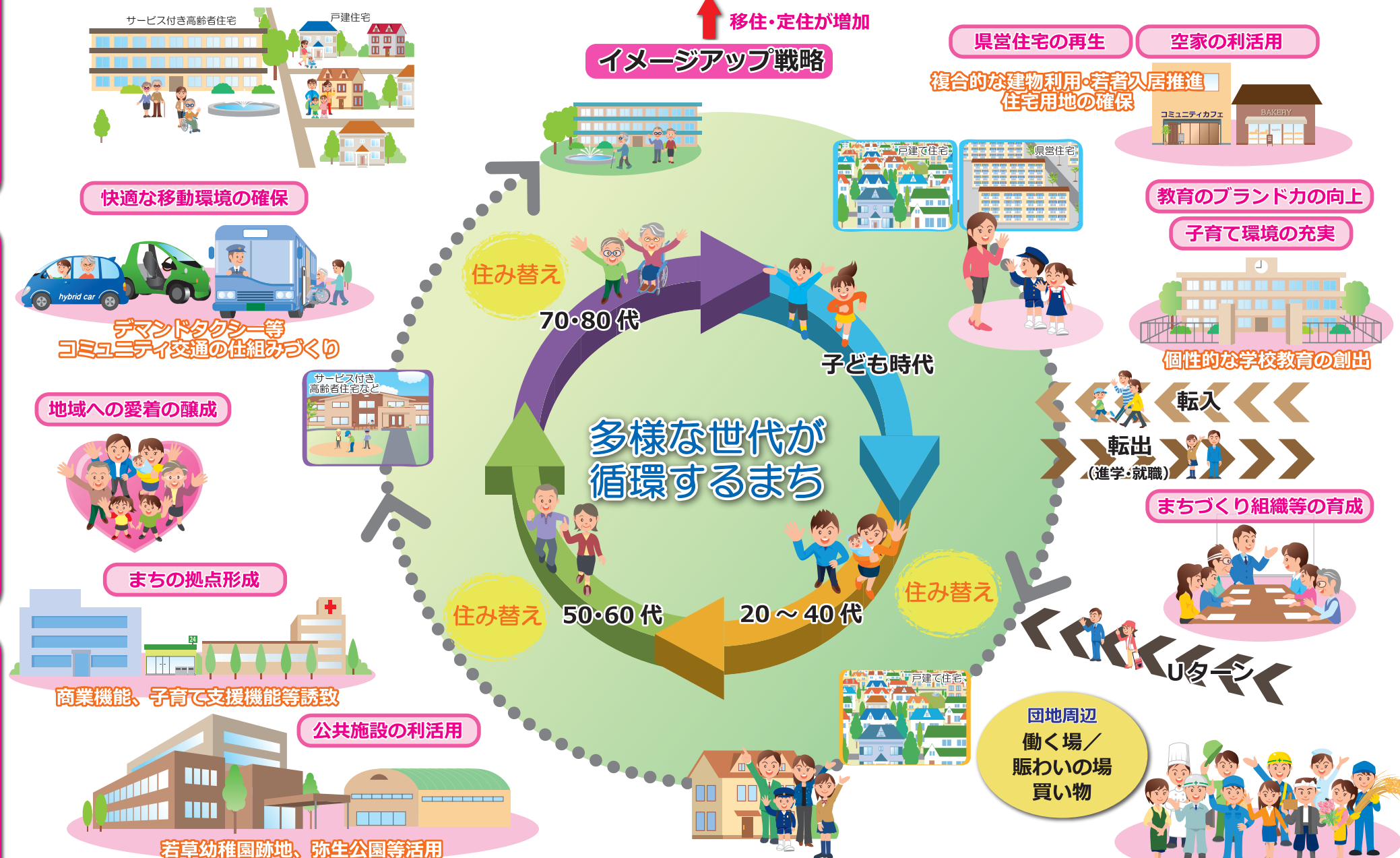
ま ち の 将 来 像

「団地」から「まち」へ ～多様な世代が支えあい循環するまちへ～

人と人とのつながりにより支えあうまちづくり

多様な世代が循環し便利で快適に暮らせるまちづくり

↑ 移住・定住が増加
イメージアップ戦略



【住民の移動環境の充実】

◎快適な移動環境の確保

- ・サポート体制の仕組みづくり
- バス交通等の利用環境の改善
- ・地域交通の利用環境の改善
- ・最新技術の導入
- 高齢者や障がい者に対する地域のサポート体制の確立
- ・地域の見守りサポーターの育成強化

【まちの拠点形成と雇用の場の確保】

◎中心部の拠点形成

- ・団地内に複合的な施設の誘致
- 利用しやすい買い物環境づくり
- ・買い物弱者に対する送迎サービスの実施検討
- 雇用の場の創出と職住近接の促進
- ・企業誘致
- にぎわい拠点の形成
- ・複合的な機能を有する拠点形成

【快適な居住空間の確保】

◎公共施設の利活用

- ・若草幼稚園跡地、弥生公園等の利活用
- 地域における防災・防犯対策の推進
- 災害に対する安全性の確保

【快適な居住空間の確保】

◎空家の利活用

- ・空家流動化支援制度の創設
- 住宅供給や住み替え等の支援
- ・学生寮やシェアハウスへの活用
- ・リバースモゲージ等の活用

◎県営住宅の再生

- ・地域のニーズを踏まえた活用の検討

【教育のブランド力の向上】

◎個性的な学校教育や塾などの学習環境の整備

- ・都市と農村の交流促進
- ・学習塾などの誘致

◎地域への愛着の醸成

- ・文化財マップの作成
- ・史跡めぐりウォーキング大会等の実施
- ・環境美化活動の実践

【子育て環境の充実】

◎子育て世代に対する地域のサポート体制の確立

- ・子育てネットワークの形成
- ・子育て世帯への相談支援

◎交流の場の創出

- ・学習支援や居場所づくり
- ・複合的な拠点形成